

■ 自然科学専攻

教育目標及び育成すべき人材、専攻のポリシー、各区分の科目対応表、指導教授別研究内容

専攻主任教授 吉田 真史

■ 専攻の教育目標

自然科学専攻は、物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の領域の基礎的な諸問題を研究対象とする。本専攻における研究展開の主軸は、宇宙が誕生して太陽系や地球が形成され、地球上に生命が誕生して生物がさまざまに進化してきた130億年におよぶ時間の流れであり、素粒子から宇宙までの空間の広がりである。自然科学専攻では、各領域の専門的な研究能力のみならず、自然科学全般を俯瞰して自然界の普遍的な真理を探究する能力が修得できるような教育を行う。

自然科学の進歩は人類に大きな豊かさをもたらしているが、現代の自然科学は高度に専門化し細分化されており、第一線で活躍する研究者であっても専門分野が異なると意思疎通のできない状況も生じている。自然科学専攻では、自然科学全般にわたる幅広い見識と健全な判断力を活かして、従来の学問分野の枠を超えた学際的な視点から、科学と社会のありかたを探究する能力が修得できるような教育を行う。

■ 育成すべき人材

自然科学専攻では、物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の領域の基礎研究において、高度な専門知識と最新の研究手法を活用する能力、未知のことがらを根本的な原理に立ち戻って探究する能力などを有し、自然科学の進歩に貢献する人材を育成する。また、自然科学専攻では、他分野の研究者と交流して学際的研究に貢献する能力、複雑な自然現象を論理的に分析し正確に説明する能力、文化的・社会的背景を異にする他者と円滑に意思疎通する能力などを有し、自然科学の研究を通じて養われた幅広い見識と健全な判断力を活かして、科学と社会の架け橋となり、社会の発展と人類の福祉に貢献する人材を育成する。

1. 専攻のポリシー

ディプロマポリシー		
自然科学の基礎研究に関する専門知識と研究手法を活用し、自然界の普遍的な真理を探究する能力を修得している。	他分野の研究者と交流して学際的研究に貢献する能力、複雑な自然現象を論理的に分析し正確に説明する能力などを修得している。	国際化と多様化が進展する現在社会において、他者と円滑に意思疎通ができる普遍的な教養、社会人としての高い倫理観と健全な判断力などを有し、社会の発展と人類の福祉に貢献する能力を修得している。
カリキュラムポリシー		
物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の領域における専門知識と研究手法が修得できるように教育課程を編成する。	自然科学全般を体系的に理解して俯瞰する能力、複雑な自然現象を論理的に分析し正確に説明する能力などが修得できるように編成する。	文化的・社会的背景を異にする他者と意思疎通できる普遍的な教養、理解力、思考力、表現力、語学力を修得し、国際化と多様化が進展する現代社会における社会人としての倫理観と判断力が身につくように教育課程を編成する。
A分類	B分類	C分類

アドミッションポリシー		
物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の領域における基礎知識が求められる。	複雑な自然現象から未解明の事象を発見し、適切な研究手法を提案できる論理的な思考力が求められる。	他者の意見を正しく理解し、自分の意見をわかりやすく表現する能力が求められる。 また、国際化した現代社会を生きるうえで必要な見識と語学力が求められる。
A分類	B分類	C分類

2. 各区分の科目対応表

区分	科目名	必選	A 分類	B 分類	C 分類
総合基礎	偏微分方程式論	選択	○		
総合基礎	離散数学特論	選択	○		
総合基礎	解析幾何学特論	選択	○		
総合基礎	統計解析特論	選択	○		
総合基礎	数学解析特論	選択	○		
総合基礎	応用数値解析特論	選択	○		
総合基礎	量子力学特論Ⅰ	選択	○		
総合基礎	量子力学特論Ⅱ	選択	○		
総合基礎	分析化学特論	選択	○		
総合基礎	化学反応特論	選択	○		
総合基礎	統計力学特論	選択	○		
総合基礎	特別講義（基礎Ⅰ）	選択	○		
総合基礎	特別講義（基礎Ⅱ）	選択	○		
総合教養	技術英語演習Ⅰ	選択			○
総合教養	技術英語演習Ⅱ	選択			○
総合教養	英語プレゼンテーション技法	選択			○
総合教養	エネルギー環境工学特論	選択	○		
総合教養	研究の作法	選択		○	○
総合教養	インターンシップ	選択		○	○
総合教養	環境保全技術特論	選択			○
総合教養	国際技術経営特論	選択			○
総合教養	技術と知的財産権	選択			○
総合教養	特別講義（教養Ⅰ）	選択		○	○
専門基礎	計算科学特論	選択		○	○
専門基礎	溶液科学特論	選択	○		
専門基礎	高分子科学特論	選択	○		
専門	理論物理学特論	選択	○		
専門	素粒子物理学特論	選択	○		
専門	原子核物理学特論	選択	○		
専門	生物物理学特論	選択	○		
専門	天然物化学特論	選択	○		

区分	科目名	必選	A 分類	B 分類	C 分類
専門	進化生物学特論	選択	○		
専門	宇宙科学特論	選択	○		
専門	惑星科学特論	選択	○		
専門	地質学特論	選択	○		
専門	古生物学特論	選択	○		
専門	数学特論 I	選択	○		
専門	数学特論 II	選択	○		
専門	自然科学実習 I	必修		○	
専門	自然科学実習 II	必修		○	
専門	自然科学特別研究 I	必修		○	
専門	自然科学特別研究 II	必修		○	

3. 領域について

本専攻は自然科学領域から成り、物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学を主として教育する。

4. 指導教授別研究内容

【自然科学専攻 自然科学領域】

■吉田 真史

分析化学的な見方・考え方は、現在社会のさまざまな局面で必要不可欠なものである。高機能材料の開発、食品の安全性の保障、薬効成分の選択抽出、環境汚染物質の同定などに、分子構造の解明や微量成分の検出などの分析化学的手法が用いられている。本研究室では、実験と計算機シミュレーションの2つの手法により、物質中の化学成分の分析、物質中の分子運動の解析、機能性分子のデザインなどの研究をおこなっている。

■飯島 正徳

食品や化粧品を初めとするソフトマテリアル（柔らかいもの）は、我々に身近なものとして多く利用されている。このようなソフトマテリアルは複雑な階層構造を持ち、それ故の不思議な性質を示す。その性質の発現機構について主に力学測定や熱測定を中心として研究している。具体的には、口紅の物性に関する①オイルワックス系オルガノゲルにおけるカードハウス構造、②デンプン糊化反応における水分量と高次構造、バイオミクリーまたはミメティックスに応用可能な③蜘蛛の糸の熱測定、などがある。いずれのテーマも物理的な視点で研究を行っている。

■須藤 誠一

地球上で最も豊富な分子種の一つである水は様々な物質中にも存在する。近年の研究では、物質のマクロスコピックな物性や機能性発現には、その物質内部で水が形成している動的な分子集団（液体構造）の状態が関係していることが分ってきた。本研究では、物質内部の水の液体構造と物性発現の関係を明らかにするために、オリジナルの広帯域誘電分光法と自己光混合レーザー計測法を開発してきた。これらの手法を用いて、コンクリートや、木材・樹木、生体、細胞等の様々な機能性物質内部の水の研究を行っている。

■中島 保寿

生物は約40億年の歴史の中で姿を変えながら、地球とともに現在の生態系を作り上げてきた。私たち人類の起源を知りたい、と思ったとき、過去にどのような生物がいたのか、彼らはどのような生活をしていたのか、生物の進化・絶滅と地球環境の変化にはどのような関係があるのか、といった疑問にぶつかる。本研究室は、地層に残された生命の痕跡である「化石」を発掘し、分析し、現在の生物と比較することで、生命進化の謎に取り組んでいる。主に、わたしたち人間に近い「脊椎動物」（恐竜、その他爬虫類、哺乳類、両生類、魚類など）を扱っている。

■西村 太樹

不安定原子核を生成して利用する加速器実験を通して、原子核構造や原子核反応のメカニズムを解明する研究を行う。重イオンビームや放射線を計測する検出器を開発し、電子回路やデータ収集システムを改良して、原子核反応の断面積やベータ崩壊の半減期や崩壊様式などをより高い精度で系統的に測定する。これらの実験データを解析し、理論計算で予想される結果と比較することで原子核や核力に対する新たな知見を得る。

■畑上 到

物理学、生物学、工学の様々な分野に現れる非線型現象を記述する非線型偏微分方程式の解の構造解析を、力学系としての数学及び数値計算の両面から行っている。特に、多数の解が共存するパラメータ領域において、ランダム項を強制的に付加した場合の数値実験によるアプローチを開発し、相対的な解の安定性や遷移過程における障壁の高さ等、現象に内在する本質的な構造を明らかにする研究に取り組んでいる。

■服部 新

整数論、特に、様々な整数論的対象の間の合同関係について研究している。例えば、代数体の整数論において、代数群上の保型形式の Hecke 固有値系を統制する固有値多様体と呼ばれる p 進解析多様体に対し、その幾何学的分析を通して保型形式の p 進的合同的性質を調べている。また、楕円保型形式の関数体類似である Drinfeld 保型形式についても、その v 進的合同的や変動の理論を構築し、Drinfeld 保型形式の v 進的性質を明らかにする研究を行っている。

■福田 達哉

生物の多様化の歴史を明らかにするために、海岸地、溪流沿い、蛇紋岩地といった特殊環境を例に、そこへの生物の適応に関して形態学的手法、生態学的手法、解剖学的手法を用いて研究を行っている。またこれらに加えて、地球環境変動の歴史と生物多様化のプロセスをつなぎ合わせるために、分子遺伝学的手法を用いて生物地理学的観点や系統学的観点からの研究を行っている。

■堀越 篤史

自然科学が対象とする自然界は、電子やニュートリノといった素粒子から、原子、分子、生物、地球、そして広大な宇宙にいたるまで、幅広いスケールの階層構造を形成している。電子の運動とサッカーボールの運動が異なるように、異なる階層では異なる物理法則がはたらくため、どのスケールでものを見るかによって自然界の風景はまるで違ってくる。本研究室では、それぞれの階層において自然がどのように振る舞うか、そしてスケールを変えたとき自然の振る舞いがどのように変化するか、の2点について、量子力学を中心として、理論物理学や計算化学を用いた研究を行っている。

5. 履修モデル

履修モデル：物理学

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
量子力学特論 I	溶液科学特論	理論物理学特論	計算科学特論
量子力学特論 II	高分子科学特論	素粒子物理学特論	宇宙科学特論
統計力学特論		原子核物理学特論	生物物理学特論
技術英語演習 I			
技術英語演習 II			

履修モデル：地球科学・天文学

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
分析化学特論	計算科学特論	宇宙科学特論	溶液科学特論
化学反応特論		惑星科学特論	原子核物理学特論
技術英語演習 I		地質学特論	進化生物学特論
技術英語演習 II		古生物学特論	
研究の作法			

履修モデル：生物学・化学

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
分析化学特論	計算科学特論	生物物理学特論	溶液科学特論
化学反応特論		天然物化学特論	高分子科学特論
技術英語演習 I		進化生物学特論	地質学特論
技術英語演習 II		古生物学特論	
研究の作法			

履修モデル：数学

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
離散数学特論	計算科学特論	理論物理学特論	素粒子物理学特論
解析幾何学特論		生物物理学特論	原子核物理学特論
数学解析特論		数学特論 I	宇宙科学特論
技術英語演習 I		数学特論 II	
技術英語演習 II			